

サンゴの成育環境悪化

辺野古新基地建設

沖縄県知事選の争点となっている名護市辺野古の新基地建設。国会議員の視察団が二十四日、現場海域に造られた護岸周辺などを自然保護団体とともに調査した。海流の変化などで、サンゴやジュゴンの成育環境が大きく損なわれていることが明らかになった。

(石井紀代美)



国会議員らが乗る視察船(手前)、退去を求める警備艇(いずれも沖縄県名護市で)

が議員らに状況を説明。防衛省沖縄防衛局は建設予定地内にある直径一メートル以上のサンゴを移植するとしているが、同協会主任の安部眞理子さん(五三)は「そもそも

大きさを区切ってサンゴを移植するかどうか判断することに、科学的根拠はない」と語った。

サンゴ礁の変化は、同協会と一緒に調査しているフリー写真家の牧志浩さんも確認している。「建設中に押しつぶされず、かろうじて生き残ったサンゴも泥をかぶり、ハマサンゴなどはすでに死滅していた。護岸に囲われた区域の海は入れ

ないが、水流が止まると水温が上がり、サンゴは死滅する。環境は著しく悪化していることが考えられる」と話す。

安部さんは議員らに、護岸が存在しなかった二年の調査と比べ、葉が柔らかくジュゴンが好んで食べる「ウミヒルモ」などの割合が減少し

たと説明。泥をかぶって死にかけている「リュウキウアマモ」が見られた一方、泥や濁

国会議員ら護岸周辺調査

訪れたのは野党議員でつくる「沖縄等米軍基地問題議員懇談会」の藤田幸久参院議員(国民民主)、初鹿明博衆院議員(立憲民主)ら四人。二〇二二年に続き、今月上旬から現場でダイビング調査している「日本自然保護協会」や、地元市民団体に協力を求めた。海底をのぞけるグラスボートに乗り、埋め立てが計画されている部分の外枠に当たる護岸の周辺で、藻場やサンゴの状態を観察し



新基地建設現場周辺の海底で泥をかぶったサンゴ(今月下旬、ダイビングチーム・レインボウの牧志治代表提供)

国は「適切に対応」と言うが…

ジュゴンのエサの海草も減少

りに強くジュゴンが好まない「ボウバアマモ」の割合が増えていたと話した。護岸で潮の流れがせき止まれば、土砂が堆積していると分析し、「今すぐ護岸を取り除けば、元の環境を取り戻せる可能性はある」と訴えた。

二十六日に国会内で開かれた野党合同ヒアリングでは、視察した議員らから批判が続出。原口博衆院議員(国民民主)は「環境を守るべき立場にある環境省は、調査しているのか」とただしたが、環境省自然環境計画課の宮沢素子課長補佐は「事業者の防衛省が適切に環境に配慮している」と述べるにとどまった。

沖縄防衛局は「こちら特報部」の取材に対し、「協会による調査の詳細を把握しておらず、コメントは差し控える。工事による自然環境への影響などを把握するため、適切に調査し、対応していく」としている。

ニュースの追跡